

さくらっ子

輝くこころ 輝くひとみ 輝くからだ

三春町立中郷小学校だより

No. 14

H28. 11. 28

発行責任者 校長 橋本一弥



全国植樹祭につながる「滝桜を守る会」の活動

2年後の平成30年に本県でおよそ50年ぶりとなる「全国植樹祭」が開催されます。会場は、南相馬市原町区が予定されています。現在、県庁に「植樹祭準備室」が開設され、開催に向けて様々な準備をしているところです。例年、式典行事には天皇・皇后両陛下がおいでになり、式典のメイン行事としてお手植え（植樹）やお手播き（種まき）をされ、この模様は全国に生放送されています。

皇后陛下がお手播きされる種には、その県を代表する親しみのある樹種から選ばれますが、本県の植樹祭ではそのひとつに三春滝桜の種が使われることが決定しています。これに関わって、本校児童が「滝桜を守る会」の活動として滝桜の種を採取していることから、本校児童に植樹祭に関わってほしいとの依頼がありました。地元の宝である滝桜がまた大きな脚光を浴びると共に、国を挙げて行う大きな行事で本校児童に活躍の場をいただけることをとてもうれしく思っています。今後、具体的なことが分かり次第お知らせしながら、しっかりと準備にあたっていきますので、保護者はじめ地域の皆様の一層のご支援とご協力をお願いいたします。



鼓笛隊の活動が始まりました！

新しい鼓笛隊編成の時期を迎え、練習が始まっています。楽器やパートの担当をきめるオーディションに向けて、休み時間などを活用して一生懸命練習する姿が見られます。伝統の活動を守るために、がんばって練習ししっかりと受け継いでほしいと思います。



ユニセフ募金に

37,755円の善意

学習発表会の6学年の発表に関わりユニセフ募金を行いましたところ、各家庭や地域の方々から非常に多くの募金をいただきました。児童もとても感激しており、真剣に考えて取り組んだことに充実感を感じています。

ユニセフ福島にお届けし、国際支援に役立てていただきます。

ご協力ありがとうございました！

入賞おめでとう！

※敬称略

第68回 田村地区造形作品展（準特選以上）

- | | | | |
|-----|---------------------------------------|-------------|-------------|
| 推 奨 | 2年 木幡俐王「ミニトマトのゆうえんち（絵画）」（県造形作品研究会へ出品） | | |
| | 4年 橋本典奈「ふけるかな？トランペット（版画）」（県児童画展へ出品） | | |
| 特 選 | 1年 柳沼樹生「バッタとあそんだよ（絵画）」 | | |
| | 2年 佐藤陽太「ミニトマトがいっぱいできたよ（絵画）」 | | |
| | 5年 鈴木貴博「緊張のスタート（絵画）」 | | |
| 準特選 | 1年 鈴木愛礼（絵画） | 2年 影山明歩（絵画） | 3年 橋本真央（絵画） |
| | 3年 鈴木杏彩（絵画） | 4年 渡邊皓哉（版画） | 5年 佐藤心結（絵画） |
| | 6年 鈴木颯斗（版画） | 6年 加藤陸斗（版画） | |

田村地区創作コンクール（作曲）

入賞 6年 大橋優菜

「努力を段階的に重ねよ 成長は加速的に訪れる」

これは、私の好きの言葉の一つです。何か目標を持って努力を始めると、すぐに成果を期待してしまうところですが、そう簡単に成果は出るものではなく、一定の努力の「蓄積」があってはじめて成長が見えるようになる、とすることを伝えてくれています。

これを図に表すと、**図1**のようになるでしょうか。努力を少しずつ積み重ねても、はじめの頃は、いわゆる「低空飛行」の状態が続きます。成長はもう少し先にあって、苦しくとも努力の積み重ねを続け、その努力が一定の量に達した（力が十分に蓄えられた）ときようやく実力として現れるのです。

ある人は、その努力の積み重ねの目印を「100」と言う数字が良く当てはまると言います。例えば計算練習100問、スポーツで言えば素振りやサーブの練習100回・・・などでしょう。また、自主学習100日継続などもよい指標で、期間にすると3か月以上のがんばりが求められます。

「10」や「20」の積み重ね、1週間や1月程度の努力なら簡単ですが、「100回」や「3か月」というのは、よほど目標をしっかり持ってやり通さなければたどり着きません。成長の神様は、やはりそのくらいのがんばりを私たち人間に期待しているのでしょうか。

この成長を実感する前にあきらめて「自分はこのことに向いていない」と思いこんで努力をやめてしまったり、他のことに目をうばわれてしまったりする 경우가少なくありません。「三日坊主」はその典型でしょう。この状態を図に表すと**図2**のように表すことができるでしょう。いつまでたっても成長しないことが一目瞭然です。そして、人間はこのような「成長」と「停滞」を交互に繰り返しながら少しずつ成長していきます（**図3**）。

勉強にしても運動にしても、あるいは、家の手伝いにしても、私たち大人は、子どもが今どんな状態なのかをしっかりと見極めて、声をかけていく必要があると思います。「もう少しだ、がんばれ」と言って応援したほうがいいのかもあって、場合によっては、「何を甘えているんだ、まだまだ！」と一喝する必要がある場合もあるでしょう。

わたしたち大人がこのような人間の成長について理解し、子ども達が出逢う様々な場面でその時に必要とされる励ましや助言がうまくできるよう、努力や工夫をしていければと思います。

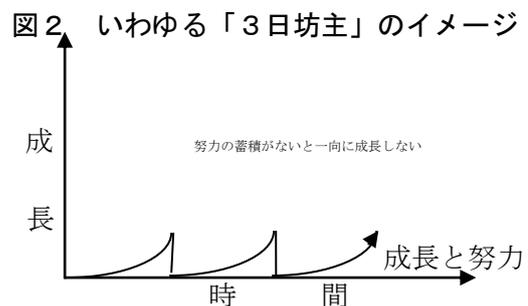
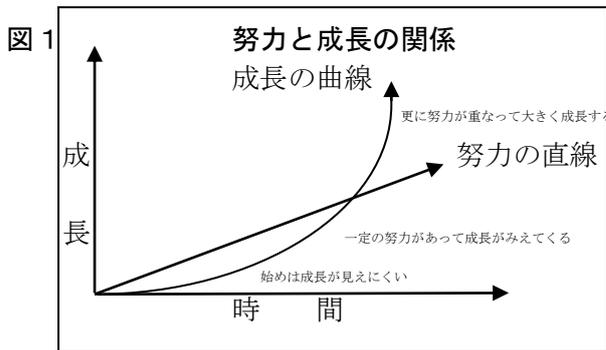


図3

